



行政視察等報告書

安来市議会議長 様

報告者 会派 燦友会
議員 作野 幸憲

この度、行政視察を行いましたので報告します。

記

期日 平成29年1月16日 ～ 平成29年1月17日

行先 福岡県春日市
佐賀県伊万里市

日程 別紙のとおり

参加者 上廻芳和、金山満輝、遠藤孝、井上峯雄、石倉刻夷、作野幸憲
合計6人

同行者 公明党 佐々木厚子

視察内容 別紙のとおり

行政視察報告

(会派 燦友会)

<視察目的>

・福岡県春日市

全国でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）が広がりを見せる中、春日市は平成 17 年度からこのしくみを導入され、実績をあげておられます。安来市でもこのしくみを参考に、今まで以上に学校・家庭・地域が連携したまちづくりができないかと考えたため。

・佐賀県伊万里市

伊万里市民図書館は、図書館ボランティアを全国に先駆けて進めるなど、様々な先進的活動をしておられる。安来市でも、この先進的な活動を少しでも取り入れ、図書館の利活用に役立てればと考えたため。

<視察概要一覧>

| 視察月日 | 視察先 | 視察施設 | 視察内容 |
|----------------------------|---------|----------|-------------------------------|
| 平成 29 年 1 月 16 日 (月) | 福岡県春日市 | 春日市役所 | コミュニティ・スクールについて |
| 平成 29 年 1 月 17 日 (火) | 佐賀県伊万里市 | 伊万里市民図書館 | 図書館ボランティア －図書館フレンズいまりーについて |

<視察概要報告>

1. 福岡県春日市

- 対応者： 春日市教育委員会 指導主幹 廣 修治様
 " 教育部教務課課長補佐 生田 久仁子様
 " 教育部教務課主任 西 祐樹様
春日市議会事務局 議事課 小嶋 健朗様

- 場 所： 春日市役所

- 概 要：

「コミュニティ・スクールについて」

春日市の小中学校では、平成 17 年度から市内 2 小学校と 1 中学校がコミュニティ・スクールに移行したのを皮切りに、順次導入が進み、平成 22 年 4 月からは市内すべての小中学校（12 小学校 6 中学校）がコミュニティ・スクールになりました。

春日市のコミュニティ・スクールの特徴は、大きく 2 つあります。

ひとつは、「協働・責任分担」方式です。校長のリーダーシップの下、学校運営協議会、地域が学校を支える応援団となり、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を担い、協働しながら相互に責任を果たす「協働・責任分担」方式によるコミュニティ・スクールを展開しておられます。

もう一つは推進部となる「実働組織」を設置しておられることです。この組織は、学校運営協議会で話し合い決定したことを実践するため、学校運営協議会委員、教職員代表、保護者代表、地域代表、教育委員会職員などで構成されています。

このような組織体制で、「社会総がかりでの教育の実現」を目標に、学校、家庭、地域の三者が主体性と役割を発揮しながら各種活動を展開しておられ、このことを通じ三者が双方向の関係づくりに努めておられます。

その結果、「学問のすすめ運動」などによる家庭学習の習慣化によって、基礎・基本学力が身についてきていること。また学校・家庭・地域の三者連携により、「共育（共に育てる）」活動が充実し、学校・家庭・地域の教育力向上につながっているなど、多くの成果を上げておられました。



〈考察〉

- 安来市でも各学校に学校評議員制度があり、学校を中心に開かれた学校の推進に取り組んでいます。春日市では学校を中核とし、校区で子どもを育てる共育観、それに加え「まちづくり」につなぐ学校教育観を基本にしておられ、学校を地域活性化の場として考え、三者の双方向への関係が構築されている点に驚きました。また成果として、ボランティア参加者が増加してきていることや補導される小中学生が今年度ないことなど、まちづくりにも大きく貢献していると思いました。
- 趣旨・しくみ・導入への手続き・特徴等を説明いただいた中で、共育基盤形成は、目標・組織・推進のしくみ・教育課程・経営運営の5つの特徴を持っていて、学校・家庭・地域が一体となった協働のまちづくりへつながることが充分理解できた。安来市では、現実として小規模学校では、まさにコミュニティ・スクールを実践しているようにも思えた。

2. 佐賀県伊万里市

- 対応者： 伊万里市議会 議長 盛 泰子様
伊万里市民図書館 館長 杉原 あけみ様
- 場 所：伊万里市民図書館
- 概 要：

「図書館ボランティア－図書館フレンズいまり－について」

今回視察した伊万里市民図書館は平成7年7月7日に市民運動とともに生まれた図書館です。当時「体育施設は整備されているが、文化施設はいまひとつ。まともな図書館がないところでは子育てはできない」との思いで「図書館づくりをすすめる会」が立ち上げ、その思いが実を結び、設計段階から意見交換をされ、市民のための図書館として、様々な活動を展開しておられます。

現在職員体制は18名（司書12名）で、蔵書点数36万点です。この市民図書館の特徴のひとつが、全国に先駆けすすめられた図書館ボランティア「図書館フレンズいまり」です。図書館が生まれる前から、深く関わっておられた「すすめる会」のメンバーが中心になられ、開館後も「協力と提言」を合言葉に、図書館サポーターとしてできる限りの協力をし、そしてしっかりと意見を言うということで図書館を支えておられます。

活動内容は、①講演会などの企画・実施②図書館の支援、及び協議、提言③図書館ボランティア活動の支援④広報・PR活動⑤他の図書館友の会との連携などです。平成28年5月現在の会員数は392名、年会費は1000円で、伊万里市民図書館を愛する人であれば市外の方でも入会できるそうです。また会員の中には「活動に参加できないけど、会費で応援するね」という方も多いそうです。年間多くのイベントや様々な活動（読み聞かせや草刈り、古本の販売など）はもちろん、赤ちゃんのブックスタート事業や自動車図書館「ぶ



つくん」の巡回、「家読（いえどく）の推進など先進的な取り組みも展開しえおられます。

〈考察〉

○最初に館長より資料により説明を受け、図書館の歩みや活動内容、特徴的な取り組み、家読へのチャレンジ等、参考にすべき事例が多くあった。また議長より補足説明があった「図書館フレンズい

まり」の活動については、目標と立ち位置をしっかりと取り組みが、他市町から注目されると感じた。

○まず「図書館フレンズいまり」は行政から補助金などを受けていないこと。会費と古本やグッズなどの販売で運営しておられることに驚きました。また赤ちゃんのブック事業を平成16年から担当しておられ、3か月健診時から将来を見据えた継続的な取り組みをすることによって子育て・教育にも大きく貢献しておられました。そして「市民のための図書館」を実現するため、幼い子から成長期の子ども、そして学ぶ若者、社会人からお年寄りまでライフステージごとの目標を立て、「図書館は、ひとづくり、まちづくりを支える成長する施設」として位置づけ、活動をしておられることにも感銘を受けました。

以上